

第11期宇治市生涯学習審議会 会議録

名称	第11期宇治市生涯学習審議会 第2回審議会						
日時	令和5年9月1日(金) 午前10時~12時						
場所	宇治市生涯学習センター2階 一般研修室 (一部オンラインによる開催)						
出席者	委員	○	内田 徹	○	嵐 繁行	○	林 みその
		○	切明 友子	○	杉岡 秀紀	×	堀井 聡
		○	桑原 千幸	×	長積 仁	○	向山 ひろ子
		○	小宮山 恭子	○	中本 裕也	○	森川 知史
		○	佐藤 翔	○	西山 正一		
	事務局・市教委職員	○	福井 康晴 (教育部長)				
		○	上道 貴志 (教育部副部長)				
		○	林口 泰之 (教育支援センター長)				
		○	堀江 紀子 (教育支援課長)				
		○	前田 紘子 (生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)				
		○	野口 雅史 (生涯学習課副課長(兼)生涯学習センター主幹(兼)生涯学習係長)				
		○	松田 輝子 (生涯学習課事業係長(兼)生涯学習センター主査)				
		○	木口 悠 (生涯学習課生涯学習係主任)				
○	八木 美穂 (生涯学習課生涯学習係主任)						
傍聴者	なし						

会議要旨は、下記のとおりである。

・ 第1回審議会の会議録について

修正がないことを確認し、ホームページで公開する。→委員了承

1. 報告事項

➤ 宇治市生涯学習人材バンクについて

(事務局)

「宇治市生涯学習人材バンク」には、令和5年4月現在で個人59件・団体15件・合計74件の、豊富な知識や技術、経験を持つ講師が登録されている。

毎年、登録講師向けアンケートと依頼者向け利用報告書により利用率を調査している。令和4年度の登録講師全体(登録講師ベース)の利用率は25.7%、全体利用率(1講師が複数回依頼を受けている場合を含めた延べ利用回数ベース)は50.0%だった。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて令和2年度・3年度は利用率が落ち込んでいたが、令和4年度は延べ利用回数も前年度の2倍以上となり、回復傾向にあると考えられる。

当課としては、引き続き、広報手段の工夫や交流会の開催等、人材バンクの認知度を高める取組に力を入れていきたいと考えている。

(委員)

昨年の報告の際にも質問したが、利用が減少していた理由は新型コロナウイルス感染症の影響との認識で良いか。

(事務局)

大きな理由としては新型コロナウイルス感染症の影響で事業自体が中止していたこと、講師自身が活動を一時的に休止されていたことで利用が減っていたと考えている。

(委員)

良い取組だと思う。利用率を上げる方策が重要であるが、概要版を見ていると、無償・実費程度の表記はあるものの、費用面が表では判断できない。リストにひと工夫があれば依頼しやすくなるのではないかと思う。また、講師のうち7割は登録しているものの依頼がない状態とのことだが、利用のない講師に対してどうアプローチしているのか、方策を教えてください。

(事務局)

概要版には記載していないが、冊子版とホームページには金額を記載している。金額の設定は行政が行う事業である点を考慮いただき、実費程度・交通費程度で設定してもらっている。また、要相談という形で、利用者の予算に応じて講師と相談いただくこともある。

利用のない講師に対するアプローチとしては、近年は新型コロナウイルス感染症の影響で開催できずにいたが、以前は年に1回登録講師の交流会を開催しており、情報交換や悩みごとの共有を行って今後の活動につなげてもらえればと考えている。

(委員)

福知山市では習い事フェスタを行っており、習い事をしたい方と講師が交流できる場を作っている。講師同士だけでなく、利用者も含めたリアルなマッチングができればハードルが下がるのではないかと思うため、情報提供させていただく。

(委員長)

確かに顔合わせの有無は大きな差になると思う。

(委員)

人材バンクに登録して長いですが、いつも登録講師アンケートへの回答に迷う。実は人材バンクを見て依頼した人も含まれているかもしれないが、講師側ではわからないことが多い。利用者にもアンケートを実施しているようだが、どのように連絡を取っているのか。

自身は大学や外でも講義をしてきたため、硬いタイトルで有償で活動してきたが、本来は無償が良いだろうし、もっと親しみやすいタイトルにした方が良いでしょうと考えていたところである。登録講師はできるだけ活動したいと思っているはずなので、マッチングで

きるシステムがうまく働けば良いと思う。

(事務局)

アンケートは利用報告があったものを集計しているが、人材バンクを見て依頼したと表明してもらえない限り把握しきれないのが現状であり、長年の課題である。平成25年度から利用者に気軽に報告いただけるよう、メールで案内したり、折りたたむと料金後納封筒になるアンケート用紙にしたりと工夫しているが、潜在的に人材バンクを見たと表明せず利用されている方もおられるだろうと感じている。

(委員)

人材バンクに登録しており、学校のカリキュラムで防災について講師をすることが多い。学校関係の依頼はかなり戻ってきているが、一般の依頼がまだまだ回復していない状況である。

利用者の方からのアンケートについて、講師にとってヒントになるような事柄があれば教えてほしい。

(事務局)

良かった点について、講師が資料等全て準備してくれることがありがたく、学校にとってとても頼みやすいという声が多かった。

(委員)

先生方の負担を少しでも減らせるよう協力できればと思っている。

➤ **令和5年度夏休み子ども★わくわくフェアについて**

(事務局)

本事業は、小学生の子どもを対象として、学び・遊び・手作りの楽しさに触れること、出展団体が日頃の生涯学習活動を活かして来場者の学びにつなげていただくこと、世代を超えて交流を深めていただくことの3つを大きな目的として開催している。今年度は令和5年7月29日(土)及び30日(日)の二日間開催した。生涯学習センターの職員が事業全体の運営にあたり、一般公募による出展者が各コーナーの運営にあたった。出展者は33団体34コーナー、参加者は宇治市内の小学生とその保護者を含め、二日間で約1,100人であり、大変盛況となった。

今年度、生涯学習課と関係部局で立ち上げている「子どもの読書活動推進委員会」ワーキングメンバーでコーナーを設け、絵本や児童書を展示し、1人1冊持ち帰っていただくリサイクル市を開催した。2日間で146名の小学生参加者に持ち帰っていただき、読書好きな子どもだけでなく、普段本に馴染みのない子どもにも本を選ぶ楽しさを体験してもらえたと思う。

➤ 令和6年宇治市二十歳のつどいについて

(事務局)

この間新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、地域ごとに参加者を分けて2回開催としてきたが、令和5年5月8日から感染症法上の位置づけが変わったことに伴い、従前の1回開催に戻す予定である。今年度は令和6年1月8日(月・祝)14時の開催を予定している。正式な案内は12月にお渡しさせていただくが、ご参加いただける場合は、来賓として、壇上にて式典冒頭の30分ご出席いただきたいと思います。

➤ 紫式部ゆかりのまち宇治魅力発信プロジェクトについて

(事務局)

宇治市には平安時代の歴史・文化が残るまちなみがあり、長年「源氏物語のまちづくり」としてソフト・ハードの両面からの取り組みを進めている。令和6年1月から放送されるNHK大河ドラマ「光る君へ」は紫式部の生涯を描くドラマであり、放映を契機として、宇治の歴史・文化・観光の魅力発信及びまちの活性化を目指すため、「紫式部ゆかりのまち宇治魅力発信プロジェクト」がスタートしている。

昨年11月から観光振興課を事務局として、文化スポーツ課、秘書広報課、歴史まちづくり推進課、公園緑地課、生涯学習課、博物館管理課が部局を越えて連携し、「紫式部ゆかりのまち宇治魅力発信プロジェクトチーム」として事業を始めている。

源氏物語ミュージアムは以前から源氏物語入門講座や連続講座を実施しているが、今年度はプロジェクト事業としてもPRしており、講座には既に定員を上回る数の応募をいただき、市内外からの関心の高まりが感じられている。

生涯学習課も9月と10月に「源氏物語ゆかりの植物」という連続講座を開催し、源氏物語に描写されている植物を座学と植物公園見学を組み合わせて学んでいただく。また、生涯学習センターのロビーでは、大河ドラマ放送開始直後の令和6年1月を皮切りに複数回、貝合わせや扇子、屏風といった平安時代の文化を感じられる設えを公民館サークルに展示いただく予定である。

令和6年度も紫式部と源氏物語、平安時代の文化などを知っていただき、宇治のまちや大河ドラマへの関心を高めていただけるような事業を企画していく予定である。

(委員)

宇治市しか発信できないコンテンツであるため、多言語対応を検討してもらいたい。

(委員)

例年まなびんぐでは各コーナーを回ってスタンプを集め、景品に交換する企画をしているが、リサイクルとして小説や絵本も景品として置くことが可能か。

(事務局)

今回は子どもの読書活動推進事業の一環として、集めた絵本をリサイクル市としてお配

第11期宇治市生涯学習審議会 会議録

りしたが、児童書や絵本が中心であり、まなびんぐの景品として使用するなら子ども限定となる。まなびんぐ実行委員会及び子どもの読書活動推進委員会のメンバーとも協議した上で考えられたらと思う。

(委員)

大河ドラマを契機としてプロジェクトが立ち上がっているが、一過性のものではなく、盛り上がりが続くことを期待する。

(委員)

観光ボランティアガイドをしており、来年に向けて皆で勉強している。講座に行くと参加者が多く、確かに盛り上がりを感じるが、観光客を受け入れたときに本当の魅力を言葉でお伝えできるだろうか。プロジェクト等様々な情報をボランティア等にも共有して、ボランティアの手も借りながら発信してほしい。

(事務局)

プロジェクトチームの一員としてそのようなご意見があったことを担当課にも伝える。来年度の事業を全庁で考えているところであり、観光ボランティアをはじめ市民の方々にも参加、力添えをいただく事業も出てくると思う。放送開始の1月に向け、積極的に魅力発信をしたいので、その際にはご協力をお願いしたい。

(委員長)

本当に良い機会だと思う。部局横断にとどまらず、市民全体を巻き込んで盛り上がると思う。

(委員)

源氏千年紀の頃に源氏物語カルタを作成した。当時は活用されなかったが、源氏物語を知るための手段として活用してもらえたら嬉しい。単に事業をするだけでなく、ボランティア等も巻き込まなければ継続して活性化させられないと思う。ますます機運が高まっていくことを願う。

2. 協議事項

(事務局)

第1回審議会では、「生涯学習のあり方について」と「生涯学習関連事業評価について」の2つの協議事項について説明したが、「生涯学習のあり方について」は、明日9月2日に事前勉強会が開催されることから、現時点では新たに報告できる内容がなく、次回ご審議を賜りたいと思う。今回は「生涯学習関連事業評価」についてご協議をお願いしたい。

➤ 令和4年度生涯学習関連事業評価について

(事務局)

第1回審議会で資料⑩としてお渡しさせていただいた資料について、具体的施策事業や目的意識評価シートに基づき、事業原課の評価に対するご意見を頂戴したい。

第二次教育振興基本計画の施策5、6に関わる約70の事業について、事業原課で自己評価を行っている。昨年度までは庁内で評価し再集計したものを審議会でご報告していたが、今年度からは当審議会で自己評価へのご意見を頂戴し、各課が事業を進める上での方向性の整理や、予算編成の参考にできればと考えている。

第2回審議会に先立ち、各委員から事前に7つ質問をいただいているので、協議の前に順に回答する。

○事業1 放課後子ども教室支援事業について

①どの程度の割合で実施しているか。

⇒・北槇島小学校「放課後学習会&北槇っ子クラブ」で月1~2回平日放課後に宿題・習字・絵手紙教室を開催。月1回程度土曜日に自由遊び等を開催。

・笠取第二小学校「笠二っ子クラブ」で平日放課後や長期休業中に、宿題・室内外での遊びや体験活動を実施。

・平盛小学校「まなび(宿題)教室」で平日放課後に学習面で課題のある児童を中心に宿題支援を実施。

②今後コミュニティ・スクールを推進する中で、目的意識評価が「A」となるよう新たな取組や事業内容の拡充は考えていくか。

⇒コミュニティ・スクールの中で熟議し、ニーズや要望が上がり、人材や場所の確保ができれば進めていきたい。

○事業11 地域社会の人材活用システムについて

人材データと生涯学習人材バンクは異なるか。異なる場合、それぞれの制度等は公表されているか。

⇒人材データの登録対象は小中学校で活動する社会人講師の登録をされた者であり、広く一般利用が可能な人材バンクとは異なる。人材データの登録者情報は非公開だが、本人の同意があれば各学校に提供する。

○事業22 学校体育施設の開放(学校開放)について

令和5年度の課題と目標が「特になし」となっているのはなぜか。

⇒学校体育施設の開放は、「学校教育に支障のない範囲」での貸し出しとなり、貸出件数など特段の目標の定めがない。しかしながら、本事業の継続にあたり、学校開放運営委員会・学校への負担を減じる運営方法を検討する必要がある。

○事業23 学校施設地域開放について

どのような団体が中学生と連携をとり、どのような活動をしているか。

⇒令和2~4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催を中止したが、毎年11月に活動成果を発表するイベントを開催している。運動部の生徒による会場設営支援、生徒会役員による当日の司会進行、吹奏楽部による演奏発表など、イベントの様々な場

面で地域開放運営委員会と活動団体、中学生が連携をとっている。

○事業28 図書館ボランティア養成事業（中央図書館と共催）について

①目的意識評価を「A」としているが、設定目標は何か。

⇒学校図書館の新たな活性化を図るため、市民・保護者を対象にした蔵書管理から読み聞かせまでを担うボランティアの養成を図ることを目標としており、数値目標の設定はない。令和3年度はコロナ禍のため養成講座等を開催できていなかったが、令和4年度は対策を講じながら開催し、市内小・中学校で図書館ボランティアとして登録・活動していただいたことから目的意識評価を「A」とした。

②令和5年度の課題・目標について、登録者数の増加は目標とせず、希望者に対する講座を充実させ、ボランティアの質向上を目標とするということか。

⇒ボランティアの登録数にはこだわらず、質の向上に努める。

○事業46 トマトケチャップづくり講習会について

参加者から好評で満足度が高い事業にもかかわらず目的意識評価が「B」の理由は。

⇒申込状況は良好だが、リピーターが多く初めての参加者が少ない状態である。より多くの方に学習成果を社会還元するという目標からすると、初めての参加を促進する必要があるため、目的意識評価を「B」とした。

○事業55 宇治十帖スタンプラリー

来年の大河ドラマに向けてのPRを含めた事業を検討するとのことだが、決まっていることがあれば教えてほしい。

⇒紫式部ゆかりのまち宇治魅力発信プロジェクトの一環として、以下のPR事業を実施予定。

- ・オリジナルバッジ（新デザイン）の復活
- ・音声ガイド機能の追加
- ・紫式部、平安時代ゆかりのスポットを紹介

前回の審議会において、事業の効果を図る指標として実績値や事業費、人件費などの定量的な数値の記載が必要ではないかのご意見を頂戴している。また、目的意識評価についても根拠の記載がないため妥当性が判断しにくいのご意見も頂戴した。次年度に向けては事業評価方法や資料の提示方法を検討しなければならないと考えているが、本日の協議においては提示の資料の中でご意見をいただきたい。

（委員）

図書館ボランティア養成講座について質問させてもらった。数は目標としないとのことだが、講座を開催するだけで目標達成となり、開催できたから「A」評価としているのか。

（事務局）

教育振興基本計画上、学習や活動をコーディネートする人材の育成を大きな目標としている。コロナ禍の間開催できなかった養成講座を開催し、実際に図書館ボランティアとし

て市内の小中学校での活動を開始できたことから、目的を意識し実際に達成できたと判断したと聞いている。

(委員)

他の事業に比べて評価が甘い。開催できたか否かだけだと0か1だが、開催しても参加者がいない場合や、参加しても活動を開始しなかった場合、「A」評価にはしなかったはずである。本当は内部で何らかの指標があり、感覚的に達成できたと判断しているはずだが、その指標を明確化していないことから、そもそも意識すべき目的が存在せず、達成しようがないのではないかと。もちろん自発性が求められるボランティアであるため、市内全校から出すのは難しいだろうが、目標値に向けて継続して働きかけることが必要であり、目標設定が不可能だというのは言い訳にすぎない。数であれば参加者数、参加校数、講座開催回数などの目標設定、質であれば、例えばビブリオバトルに関する講座を開催するなど、講座内容自体の質を上げる目標を設定することが考えられる。講座開催により何を求めているか、そのためにどのような努力をすべきかを考えて目標設定し、モニタリングしていくことが事業評価シートを作る意義である。

(委員長)

前回からシートの枠組み自体が議論となっているが、確かに目標の根拠が分からない評価であり、特に「目標なし」の事業があることには驚く。

(事務局)

ご指摘のとおり、何らかの目標設定をして、結果がどうかをシートに記載する必要がある。現段階で各事業について目標や評価根拠を提示することは難しいが、次年度に向けて検討したい。

(委員)

評価シートの記載が足りないというよりも、根本的に事業原課に評価シート作成の意図が伝わっていないように思う。

(委員長)

定量評価が全てではなく、事業に応じて目標を立てることが重要である。次年度に向けて、評価シートの枠組みを含めて検討していただきたい。

(委員)

「A」評価が素晴らしいという考え方は変える必要がある。「A」であっても今後に残る課題を考えていけるような評価基準を詰めて考えていくべきだと思う。

(事務局)

教育振興基本計画に掲げる施策の取組目的を意識して事業実施しているか、という観点で評価してもらったが、生涯学習を主目的としていない事業もあり、ご指摘のとおり評価シートの趣旨を伝えきれていない部分もあったかと思う。単年度ごとの事業評価ではあるが、「A」であれば良いということではなく、今後もより良い方向で事業実施できるように、また「A」以外の場合は課題が何でどう改善すべきかを考えて前に進めるように、評価シートを活用してもらうことを意識して方法を考えていきたい。

(委員長)

評価することが目的でなく、生涯学習を発展させることを目的にできるような評価シートの作成を検討してもらいたい。

(委員)

事業評価を実施していることはすばらしいと思うので、事業をより発展させるべく評価の手法を検討してもらいたい。生涯学習は範囲が広く、教育委員会だけでは完結しない分野である。より効果的に評価を実施していくためには市全体で評価に取り組む必要があり、行政改革が必要となる程の大きな話であると思う。また、評価の時期について、次年度の事業に評価結果を反映させるためには、予算要求の時期に間に合わせることも重要である。今回のような時期での開催を続けてもらいたい。

また、特に市長部局からは単に面倒な評価作業と捉えられていると思う。誰のために・何のために事業評価を行うかを事業原課と目的共有することが重要である。さらに、評価を前向きに捉える文化の醸成が必要であり、教育委員会発信で研修会を行うのも良いかもしれない。単にメールで「いつまでに回答して」と依頼するだけでは伝わらない。

評価シート自体も一度作って終わるのではなく、アップデートして行ってほしい。

(事務局)

特に市長部局は教育振興基本計画を参照しながら事業しているわけではないため、依頼する目的意識に対する評価が伝わっていなかったと感じている。今回のフィードバック後に改めて来年度の調査について、目的や趣旨を説明する機会を設けたい。

また、この時期でないと予算への反映ができないため、今後も年度終わり早々に回答を依頼し、同様の時期に審議会で協議いただけるようにしたい。

(委員)

公民館で事業するにあたって、リピーターが多く参加者が偏ることが課題と聞くが、事業46「トマトケチャップづくり」・事業47「味噌づくり」と、同様の目的で内容を変えた事業を実施しているのは、参加者を分散させる工夫ではないかと推測している。

また事業55「宇治十帖スタンプラリー」について、新デザインのバッジも良いが、何か宇治市の広報やふるさと納税につながるようなものにできれば発展していくのではないかと

と思う。

(事務局)

トマトケチャップづくり・味噌づくりについては、これまでどちらも先着順で募集していたが、要領を得た方が募集開始後すぐに応募され、半分以上がリピーターという状況である。一度抽選方式に変更し、少しでも広く学習機会を持っていただけるようにしてはどうかと検討している。

宇治十帖スタンプラリーについては、ここ数年デジタルスタンプラリーとして開催していたが、大河ドラマに合わせて従来のバッジプレゼントを復活させることが公表されている。現時点では先に説明した3事業が公表されているが、10月に始まるイベントのため、今後詳細が公表されていくものと思う。

ふるさと納税等につながるようにとのご意見をいただいた旨は、担当課にも伝える。

(委員)

事業評価シートに並んでいる事業は、現代の様々な課題の中で生涯学習として取り上げるべきものだと思うが、最近話題になっているヤングケアラーについて触れられていない。昨今ようやくスポットが当たるようになった問題であるため仕方ないことだが、来年度に向けて項目にあげてほしい。このようによく関心が出てきた問題を生涯学習の中でピックアップして発展させていくことが大切だと思う。

また、広報をかける際 YouTuber を利用できれば良いのではないかな。もちろん相手を選ぶ必要はあるが、YouTube の力は非常に大きいと思う。

(事務局)

最近問題になり始めたことを市民に知っていただくことも生涯学習の一つの役割だと思うので、どこまで反映できるかわからないが、アンテナを張って各事業を実施したい。

生涯学習分野ではできていないが、産業振興課が宇治のグルメを紹介するチャンネルや、観光大使が宇治の観光地を巡るチャンネルなど、本市でも YouTube を使用した情報発信に取り組み始めている。よければ委員の皆様にもご覧いただければと思う。

(委員)

新型コロナウイルス感染症の影響で実施されていない事業も多いが、令和5年度は全て実施の方向なのか。それによって評価も変わると思う。

(事務局)

生涯学習課の事業は現時点では計画の全てを開催できているが、所管の公民館では事業の復活を検討する中で、やり方を変更したものもある。他課でもおそらく開催に向けて計画しており、新型コロナウイルス感染症を理由に廃止することはないと思うが、内容の見直しを行う可能性はある。今後の感染状況によって再検討する時期も出てくるかもしれない。

いので、令和 5 年度の実施状況は終わってみないと分からない部分がある。

(委員)

規模縮小や開催できなかった場合でも、次年度の評価シートに変更点等を記載してもらえると工夫したポイントが確認できて良いと思う。

(委員長)

良いご意見が多くいただけた。特に大きな枠組みの部分についてのご意見も多かったので、次回ももう少し議論できればと思う。また個別の事業についてのご意見があれば、次回審議会でも出していただければと思うので、引き続きお願いしたい。

3. その他

➤ 令和 5 年度近畿地区社会教育研究大会(滋賀大会)について

(事務局)

9 月 8 日(金)に令和 5 年度近畿地区社会教育研究大会が開催される。公用車でご参加いただく委員には、9 時 30 分に市役所議会棟前にお集まりいただきたい。また、11 月 8 日～10 日に宮崎県で行われる全国社会教育研究大会の資料もお配りしているので、ご参考までにご覧いただきたい。

➤ 令和 5 年度やましろ未来っ子まなび・体験活動サポーター研修会について

(事務局)

すでにメールでお知らせしているが、10 月 12 日(木)に令和 5 年度やましろ未来っ子まなび・体験活動サポーター研修会が開催される。参加を希望される方は 9 月 7 日までに事務局にお知らせいただきたい。なお、生涯学習課職員の随伴はないのでご了承いただきたい。

➤ その他

(委員)

大河ドラマに関連して宇治市を盛り上げようとして取り組まれているが、宇治市は良いものを持っているにもかかわらず発信が下手であるため、商工会議所や観光協会など関連団体ともタイアップしながら、全市で盛り上げていきたいと思う。

(委員長)

今回は生涯学習のあり方を議論することになるが、紫式部に関する機運の高まりは本当に良い機会だと思うので、審議会としても何らかの形で意見が出せる機会があれば良いと思う。

➤ 次回審議会の日程について

(事務局)

次回審議会は10月12日(木)の10時から、生涯学習センター2階一般研修室にて開催させていただきます。後日、事務局より出欠及び参加方法を確認させていただきます。

(委員長)

次回も対面とオンラインのハイブリッド開催となると思うので、ご参加をお願いしたい。

• 最後に

(委員長職務代理)

本日も非常に活発にご議論いただいた。評価と評定がうまく伝わっていないように感じた。税金をより良く使うためにも、事業内容が精査されると良いと思う。

ハイブリッド開催が本当に難しかった。生涯学習センターの音が割れて聞こえないことも多かったので、次回までにうまく調整できていればありがたい。